

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 予想を上回ったもののハリケーンによる増加に歯止めがかかった可能性 (10月8日までの週の失業保険申請件数)

05年10月14日(金)

～今後は徐々に低下が予想される～

(No. UI-120)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 38.9万件と前週 から0.2万件減に とどまり市場予想 を上回った

10月8日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、38.9万件と前週の39.1万件から0.2万件減少したものの、市場予想である36.0万件を上回った。トレンドを示す4週間移動平均は、39.5万件と前週の40.4万件から減少した。労働省によると、該当週はハリケーン「カトリーナ」「リタ」の影響で7.5万件押し上げられた。これでハリケーン襲来による失業者数は合計で43.8万人となった。

一方、10月1日に終わった週の失業保険受給者数は、287.3万人と前週から増加したものの小幅な増加にとどまっている。また、10月1日に終わった週の失業保険受給者比率が2.2%と9月の2.2%と同水準で推移しており、雇用環境の悪化に歯止めがかかったとみられ、失業率は9月の5.1%程度で推移していると考えられる。

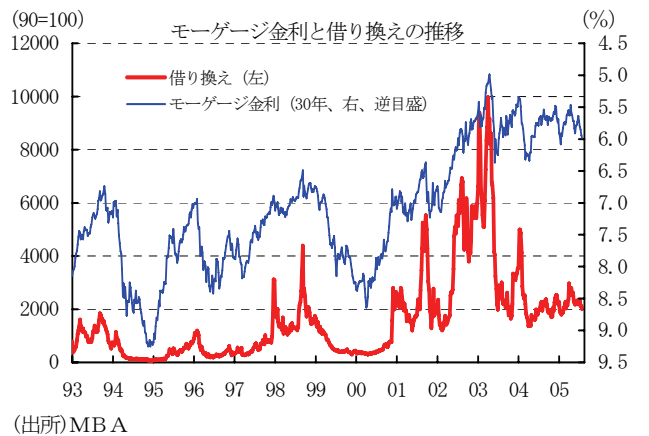
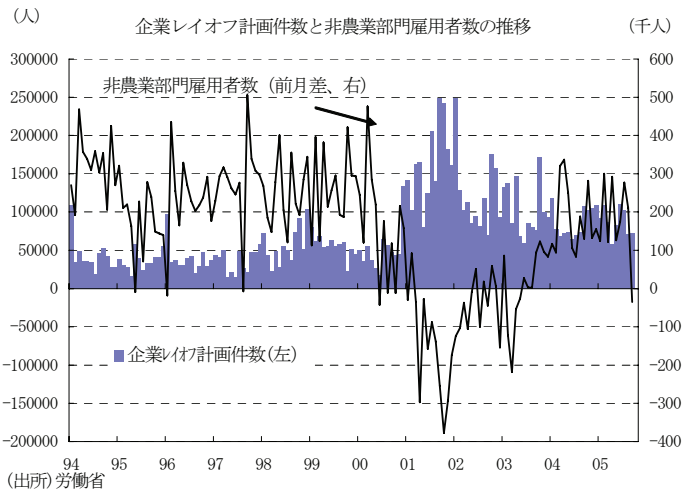
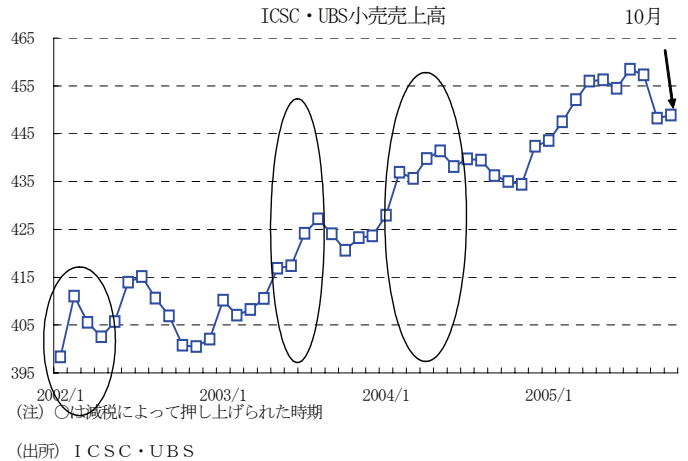
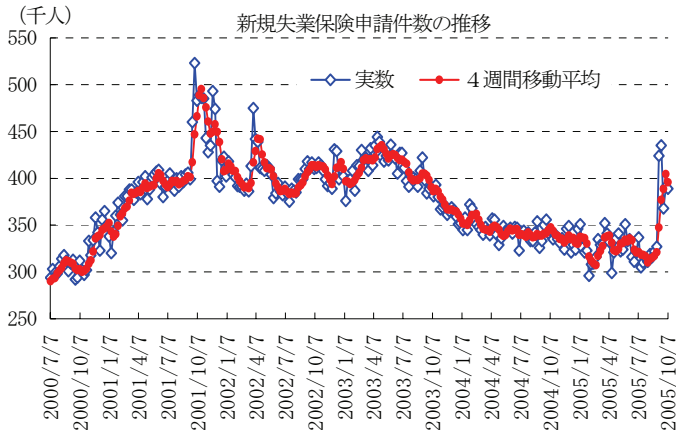
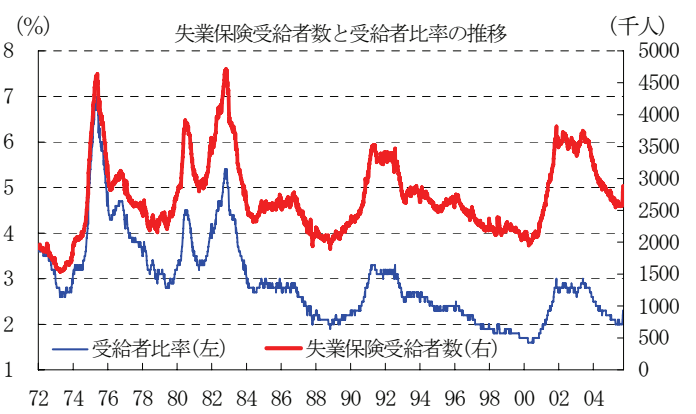
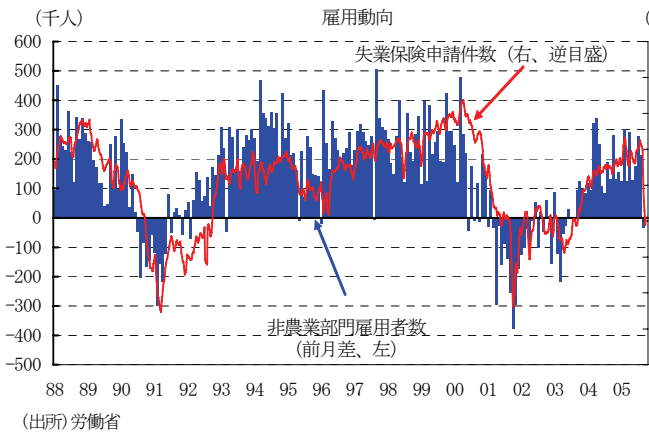
### 10月の雇用は拡 大基調に戻る公算

ハリケーン「カトリーナ」、「リタ」の襲来で失業保険申請件数が増加した一方、他の州で職を探し始めた人や、今後復興需要関連での採用増加が見込まれることから、新規失業保険申請件数の増加にも歯止めがかかった可能性がある。

ハリケーン「カトリーナ」による被害によって、9月に雇用が減少したものの、IEA加盟国による戦略備蓄放出等を受けエネルギー価格が低下に転じていることや、補正予算で財政支出が拡大することから景気は拡大基調を維持すると予想される。このため、被災地区以外ではハリケーン「カトリーナ」「リタ」襲来前の状況から雇用情勢に大きな変化は生じないと予想される。

ハリケーン「カトリーナ」「リタ」襲来前までの状況をみると、価格競争の激化が続く中でリストラ件数は高水準を維持し雇用の増加を抑制する要因となっていた。一方、雇用に先行する景気が2003年4～6月期から2005年4～6月期まで潜在成長率程度の成長が持続したため、期待成長率の高まりに伴い企業の採用意欲が強くなっていた。10～12月期の新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画など、各種雇用関連調査では採用拡大が示唆されていた。また、規模別でも多くの雇用を抱える中小企業の雇用計画(「増やす」-「減らす」)がハリケーンが襲来した9月調査でも17%と8月と変わらず高い水準を維持しており、中小企業での雇用の拡大を示唆していた。

以上のことを勘案すると、10月には雇用は拡大に転じると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。